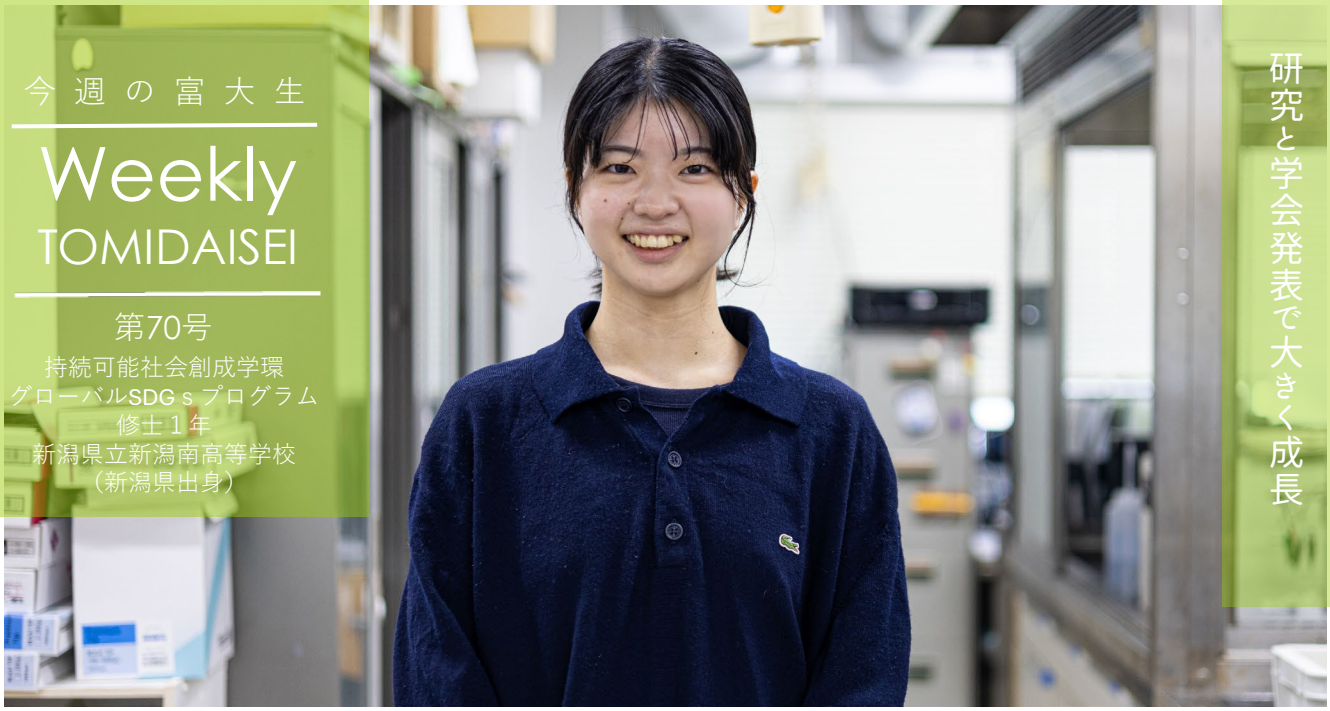
今週の富大生

Weekly TOMIDAISEI

第70号

持続可能社会創成学環
グローバルSDGｓプログラム
修士１年
新潟県立新潟南高等学校
（新潟県出身）



研究と学会発表で大きく成長

探求の授業で研究の楽しさを知る

高校進学時、理数コースに進学しました。理数コースでは2年間にわたる探究活動があり、グループで「スズメバチの巣の快適さについて」というテーマで研究を行いました。先行研究を参考にしながら試行錯誤を重ねる中で、自分の疑問を自分で確かめていく研究の面白さを実感しました。1週間アメリカに行って大学で研究成果を発表するという機会にも恵まれました。自分たちの研究を自分の言葉を伝え、海外の人から反応をもらえたことで、研究成果を発信し共有することの大切さを感じ、大学に進学したらこれからの社会の課題を対象に研究してみたいと考えるようになりました。

総合大学で多様な人との出会いに期待

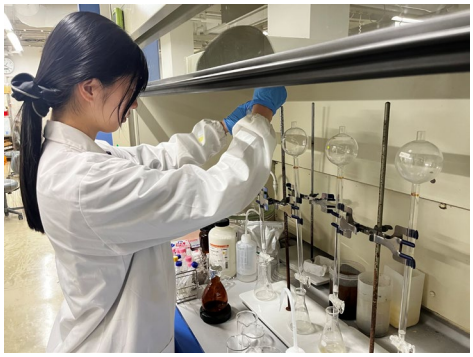
環境に関する研究ができることを軸に、理学部や農学部など幅広い選択肢を検討しました。大学の立地や研究環境を含めて調べる中で、自然に恵まれ、多様な分野の学生が集まる総合大学で学びたいと考えるようになりました。富山大学理学部への進学を決めました。
大学に入って感じたことは、自分の「好き」を大切にし、夢中になって学んでいる人が多いことです。標本や模型を集めている友人など、さまざまな関心を持つ人との出会いから多くの刺激を受けました。

富山の自然に魅力を感じる

大学入学後は、アウトドア活動を通じて地域の子供たちの心身の育成を支援するボランティアサークルに所属しました。夏には川や海での活動、長期休みにはキャンプ、冬にはスキーやかまくら作りなど、四季を通して富山の自然に触れる機会がありました。安全管理や運営にも関わり、責任の大きさを感じる場面もありましたが、富山の豊かな自然の中で地域の人々と関わる時間は、私にとって大切でやりがいのある経験となりました。

学会発表でやりがいと成長を実感

理学部自然科学環境科学科（現在の自然環境科学コース）では、授業や学生実験を通して物理・化学・生物など幅広い分野を学ぶことが出来ました。その中で、科学的な観点から環境を分析することに興味を持つようになりました。環境分析を専門とする、佐澤和人講師の環境科学計測Ｉ研究室で研究することを選びました。現在は、泥炭火災が頻発しているインドネシアの土壌を対象に、分析と評価を行っています。これまでに３回の学会発表を経験し、専門外の人にもわかりやすく伝えることの難しさと重要性を学びました。他大学の学生との交流から刺激を受け、発表内容や伝え方を工夫してきた結果、第56回中部化学関係学協会支部連合秋季大会で学生優秀発表賞を受賞できました。



お世話になった高校の先生へ

高校時代の理数コースでの研究活動と先生方のご指導のおかげで、研究の面白さを知ることが出来ました。その経験が、研究に取り組む原点になっています。

Vol. 70

取材日：2025年12月23日